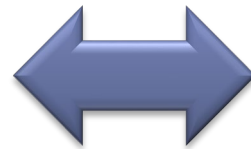


【導入説明】 認定とSDGsとの関わり

(独) 製品評価技術基盤機構 (NITE)
認定センター (IAJapan)

SDGsとは

- Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標
- 2015年に国連が定めた2030年までの世界共通の目標
- 17のゴール、169のターゲット
- 多種多様な社会課題の解決につながる



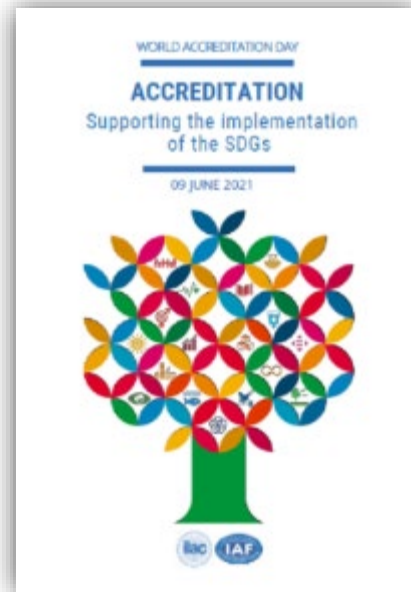
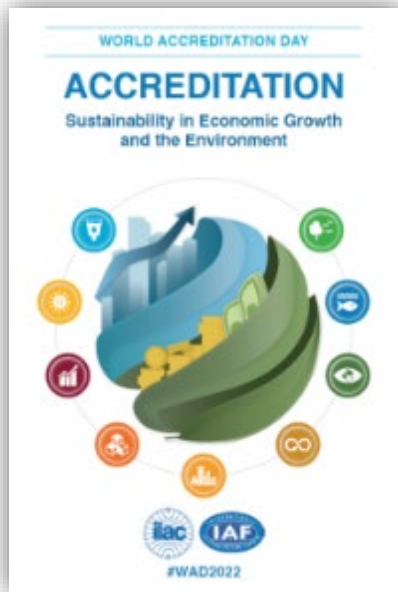
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsに関連する国際的な取り組み

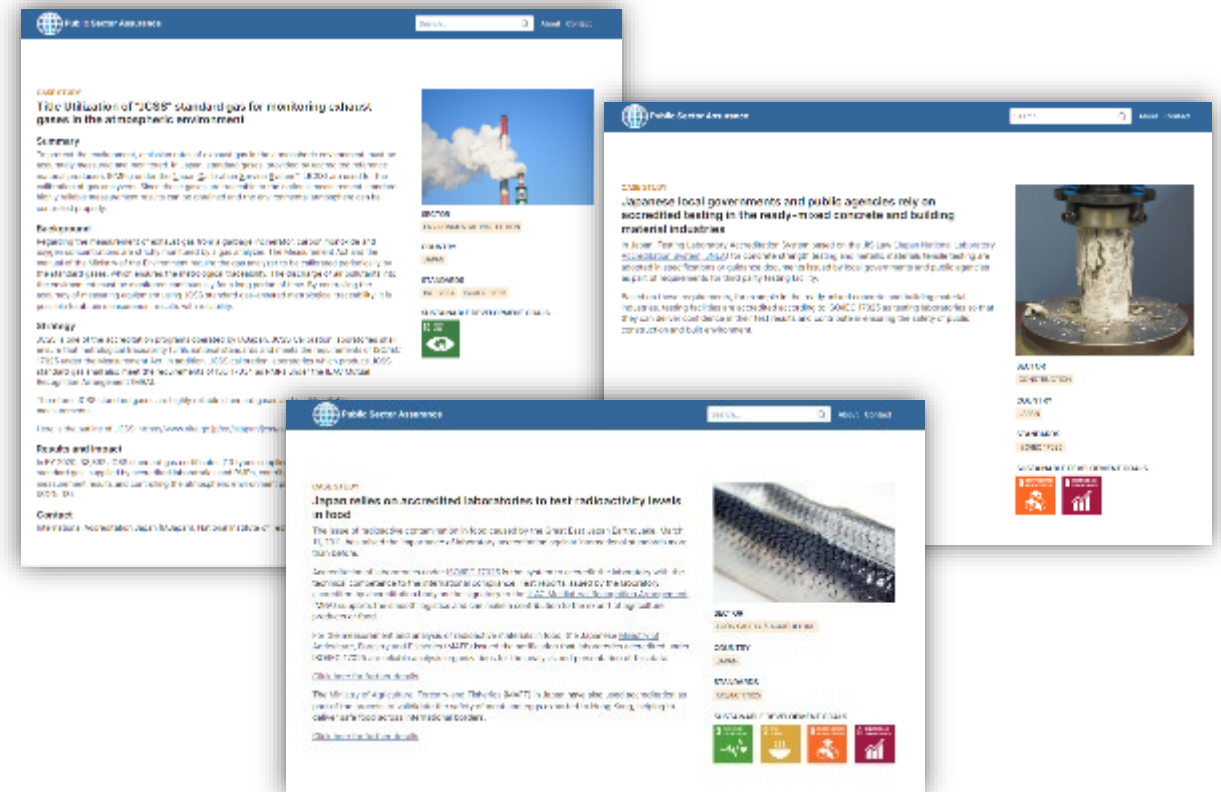
世界認定推進の日のテーマ

- 【2022年】認定：サステナブルな経済成長と環境をめざして
- 【2021年】認定が支えるSDGsの実践



出典：ILAC、IAF WEBサイトより
<https://ilac.org/news-and-events/world-accreditation-day-2022/>
<https://iaf.nu/en/world-accreditation-day/>

認定・認証の活用事例とSDGs目標



出典：ILAC等の関連機関が運営するINetQI（International Network on Quality Infrastructure）WEBサイト
<https://publicsectorassurance.org/>

国内での取り組み

「認定×SDGs」特設サイト

認定×SDGs

認定とSDGs

SDGsは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2015年に国連で採択された、2016年から2030年までの国際目標です。17の目標と、それらを達成するための169のターゲットにより構成されており、「誰一人取り残さない」という共通理念に基づいています。



認定機関／認定事業者とSDGsとの関わり



出典：IAJapanWEBサイト

https://www.nite.go.jp/iajapan/aboutus/pr/SDGs_index.html

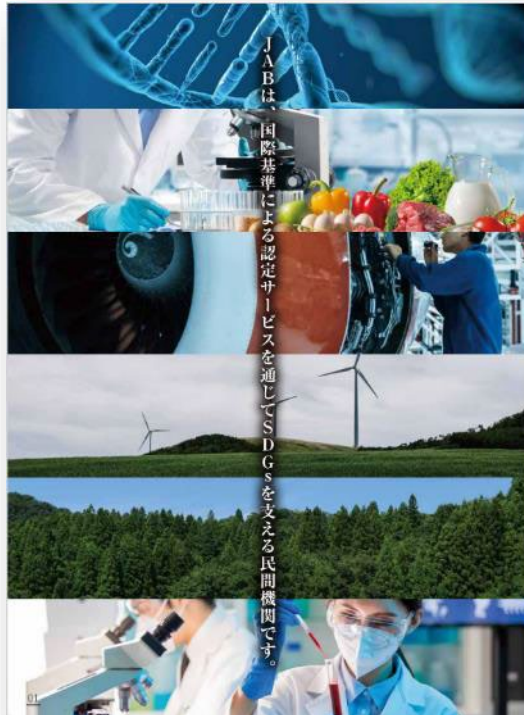
活用事例とSDGsとの関わり



出典：IAJapanWEBサイト

https://www.nite.go.jp/iajapan/aboutus/pr/riiyo_katsuyou_jiturei202204.html

活用事例とSDGsとの関わり



JABは、国際基準による認定サービスを通してSDGsを支える民間機関です。

私たちのミッション

- 1 地球環境の保全と自然環境の保護、整備
- 2 公正かつ自由な経済活動の活性化による国民生活の安定向上
- 3 消費者の利益の保護増進
- 4 クオリティ・プラストラクターの一人として「SDGs」を支援

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

第三者適合性評価は、評価能力をもつ第三者が基準への適合性を評価する社会制度。つまり、「優れたものを選んでおく・測定しておく」制度です。基準と評価行為が適切であれば、経済社会活動において「組織体」や「製品・サービス」を選ぶとき、その選択の質と効率の向上に大きく貢献し、評価プロセスを通じて、評価対象のレベルの向上を期待することも可能です。この制度は、安全・安心社会の実現、経済活性化・産業競争力強化、そしてSDGsなど望ましい価値観の浸透を促す巧みな社会制度といえます。この制度において、本協会が掲げる「認定」という社会的価値は、適合性評価における評価能力の維持・向上、さらには適合性評価制度そのものの有効活用の促進と信頼向上を指すものであります。

適合性評価と認定

製品・サービス自体、またこれを供給する企業でのマネジメントシステム等が、適用する仕様・技術的・法的・事実的影響に適合しているかを評価するプロセスを適合性評価といいますが、評価の対象によって認定・認証、検定、登録などに分類されます。これらの適合性評価も適用する標準（適合性評価規格）が国際的に定められたものに基づいて実施を遂行しているかどうかを確認する業務を認定といえます。

認定機関の役割

適合性評価規格が行う認定・検定、検査、認証などの適合性評価に対し、利用者からは信頼や機会を行うための役割、信頼性が求められます。このような市場からの要請に、適合性評価機関そのものを評価し、継続的にモニタリングする機能が「認定」であり、この業務を行う機関が「認定機関」です。

大きな 卵と鶏肉の新しいJAS 誕生！ ～テーマは「持続可能性」～

令和2年3月、新たな日本農林規格（卵、肉類の飼料用米、鶏ふんなどの糞尿）より配慮した卵と鶏肉に関するJASが制定されました。今回は、卵と鶏肉の生産状況などをご紹介します。

1. 卵の自給率は高い？
皆さんは、卵と鶏肉の自給率がどのくらいご存じですか？下の図は、平成30年度の自給率です。

卵の自給率 (飼料用米)	鶏肉の自給率 (飼料用米)	鶏卵の自給率 (飼料用米)
卵 95%	鶏肉 64%	鶏卵 97%

食料全体の自給率が37%ですので、それに比べて卵と鶏肉の自給率は高いことが分かります。ここでは、鶏とエラの自給率です。

鶏の自給率	エラの自給率	鶏卵の自給率
鶏 75%	エラ 68%	鶏卵 95%

実は、卵や鶏肉を生産するために必要な穀類やエラとなるトウモロコシは、そのほとんどを輸入でまかっています。これでは、海外で高インフルエンザや干ばつが起こって穀類やトウモロコシを輸入できなくなると、国内で卵と鶏肉が買えなくなるかもしれません。

2. 持続可能な鶏卵・鶏肉の生産

3. 新しいJASの制定
このような持続可能な取組により生産された卵と鶏肉を、今後広く普及させるためには、これらの商品について、消費者の皆さんが選んで購入することが大切です。FAMICはJASの申請者が原案を検討し、国へ提出するまでしっかりサポートしてきました。このたび、この新しいJASが制定され、規格に適合した卵と鶏肉には、富士山と日の丸のデザインがとても印象的な新しいJASマークを付けて、他の商品と差別化することができるようになりました。

4. アニマルウェルフェア
家畜の快適性に配慮した飼養管理のことで、快適な環境で飼うことで家畜が健康になり、畜産物の安全性や生産性の向上につながります。

5. SDGs (持続可能な開発目標)
2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の目標のことです。このJASでは、12 気候をゼロに「J」及び「12」をつくる責任（責任）を目標としています。

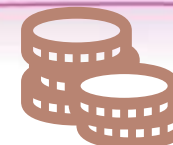
6. 外務省ウェブサイト
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>

出典：日本適合性認定協会（JAB）WEBサイト
<https://www.jab.or.jp/files/items/common/File/JABUPDATES.pdf>

出典：FAMIC(JASaff)サイト
http://www.famic.go.jp/public_relations_magazine/kouhoushi/bac_k_number/202009-61.pdf



本日の講演



	演題	講演者	関連する主なSDGs目標
講演1	カーボンニュートラルに係る 認証事例	一般財団法人日本品質保証機構 (JQA) 地球環境事業部 次長兼環境審査課 課長 浅川 健一 様	
講演2	組織の価値創成のための ISO55001認証 ～ESG 評価への適用	一般社団法人日本アセットマネジメ ント協会 理事 竹末 直樹 様	
講演3	オーガニック水産物の養殖、 販売について	KURAおさかなファーム株式会社 水産事業本部 清水 雅彦 様	

ご清聴ありがとうございました。